

2024年度の委員会等も新体制となり、初めての定例会が5/15～7/9に開催されました。私は今年度、議会運営委員会はじめ、産業労働常任委員会・共生社会特別委員会・予算委員会等の委員として、県政の諸課題に取り組んでまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



令和6年第2回定例会

代表質問

から

視覚障がい者の踏切事故をなくせ

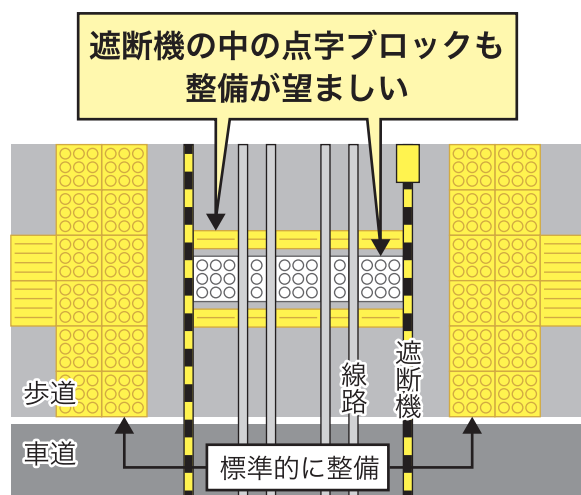
令和4年4月、奈良県で視覚に障がいのある女性が踏切内で列車と接触し亡くなる事故が発生しました。代表質問では、国が本年1月、踏切内に点字ブロック等の誘導表示を増やすためバリアフリー指針を改定したことを受け、視覚障がい者の踏切内事故をなくすために県として迅速に取り組むべきと知事に質しました。

知事答弁 バリアフリー法で、特に障がい者の通行に配慮すべきと指定された3箇所の踏切を優先して鉄道会社と協議を進め、今年度中に点字ブロックを設置する。残る26箇所の踏切についても令和7年度の工事完了を目指していく。さらに、市町が管理する道路の踏切についても点字ブロックの設置が進められるよう、工事の方法や、鉄道会社との協議の進め方等をわかりやすく提供し、視覚障がい者の踏切事故の撲滅を目指す。

踏切内の点字ブロックの設置イメージ

「標準的な設置方法の例」

国交省の資料から



代表質問

から

被災した中小企業に迅速な融資を

自然災害発生時の中小企業に対する支援について、国のセーフティネット保障の支援を待つことなく、県の制度融資を通じた速やかな資金繰り対策をすべきと知事に質しました。

知事答弁 現行の制度融資では災害発生都度の被災企業向けの融資メニューを新たに創設しているため融資開始まで一定程度の時間を要する。また、近年増加している局地的な豪雨による被害は対象外となっている。そこで、今後はセーフティネット保障の発動の有無にかかわらず、被災した中小企業が即座に利用できる県独自の融資メニューを本年の9月頃をめどに創設する。



おだ幸子プロフィール

◎神奈川県藤沢市辻堂東海岸在住◎2023年4月神奈川県議会議員選挙初当選◎中小企業診断士◎MOT(技術経営修士)◎防災士◎明治大学政治経済学部・日本工業大学専門職大学院卒業◎大手損害保険会社に総合職として29年勤務◎家族は夫と息子◎趣味は読書・ドライブ・ものづくり◎議会所属委員会：議会運営委員会・産業労働常任委員会・共生社会特別委員会・予算委員会◎公明党神奈川県議会議員団政務調査副会長

みなさまの声をお寄せください

【連絡先】神奈川県議会公明党控室

045-210-7630 おだ幸子

<https://lit.link/odasatiko>

HP・SNSはこちらから▶



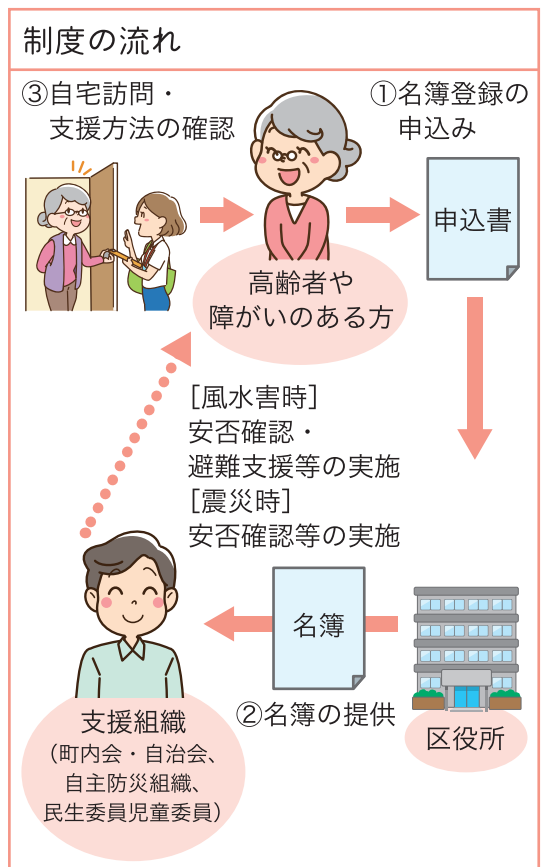
一般質問から

災害時要配慮者に十分な支援を

災害時に支援が必要な在宅な高齢者や障がい者が、日頃から災害に対する準備ができるよう、どのように支援するのか。また、そうした人たちが安心して身を寄せることができる福祉避難所の充実に向け、どのように市町村を支援していくのか、知事の見解を質しました。

知事答弁 災害時に支援が必要な要配慮者が安全に避難し、適切な支援を受けるには、避難方法や支援者等を決めておく個別避難計画が重要である。そこで、県では、計画作成から避難訓練実施までの手順書の作成や、難病患者の個別避難計画を作成するモデル事業を行い、その成果を市町村と共有するほか、訪問指導等を行い、計画作成を支援する。

また、福祉避難所の拡充に向けては、県が直接、福祉施設やその団体に対して協力を働きかける。さらに、人員や資機材が確保できるよう、福祉避難所のための新たな支援策を検討する。県として、今年度作成予定の新たな地震防災戦略に、要配慮者対策を重点施策として位置付けていく。



一般質問から

子どもの意見聴取にデジタルを活用

県では令和5年度から、子どもから直接意見を聴く「子ども目線会議」を対面で実施し、6年度からはインターネット掲示板などを活用していくとしています。その際は、意見聴取のプロセスに子ども自身に主体的に関わってもらい、子どもならではの発想を取り入れる工夫が必要と考え、知事の所見を訊ねました。

知事答弁 時間と場所にかかわらず匿名でも参加できるデジタル版「子ども目線会議」をインターネット上に開設。そこでは、オンライン掲示板やオンラインワークショップ、意見箱など様々な参加方法を提供する。また、意見交換のテーマや、参加したくなるような仕掛けを子どもから募るなど、子どもならではのアイデアや意見を県の施策に反映させていく。

さらに、LINEやインスタグラムなどSNSを活用した広告を打つなど、効果的な周知を図っていく。



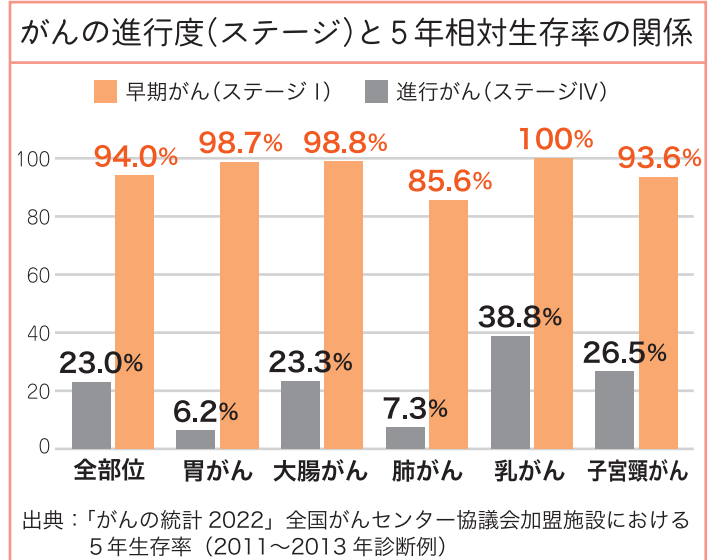
一般質問から

がん検診をもっと受けやすく

がんの早期発見・早期治療に有効ながん検診について、県は市町村等と連携し、県民が一層検診を受けやすい環境づくりに取り組むべきでないかと、知事の見解を質しました。

知事答弁 今年3月に改定した「がん対策推進計画」では、本県も目標値を上げ、「受診率60%を目指している。そのため、県では、がん検診を実施する市町村と、健康診断を行う企業の保険者が連携して取り組めるよう調整を進める。

例えば、市町村のがん検診と「協会けんぽ」などの保険者が実施する健康診断を同じ日に、同じ会場で実施するなど、受診しやすい環境づくりを行っていく。



大切なお知らせ

かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター 「かならいん」に 『LINE相談窓口』ができました！



※従来の電話相談やメール相談もあります。
くわしくは県HPをご覧ください。

「かならいん」では、性別・年齢等問わず、性犯罪・性暴力の被害にあわれた方やそのご家族からのご相談をお受けしています。あなたの不安を解消するため、どうしたらよいか一緒に考えます。必要に応じて、医療機関や警察署などへの付添いを行います。

LINE
相談

ご相談は無料。
匿名でOK！秘密は必ず守ります。
相談受付時間：火・木・日曜日 16時～21時



LINEから相談



県ホームページ

中小企業を応援します！

「伴走支援型特別融資」の周知徹底を

国の制度が6月末で急遽終了することに対して、県として独自に9月末まで「かながわ伴走支援型特別融資」を創設することになりました。私は委員会において、この融資は、中小企業等のゼロゼロ融資の借換需要等に応える制度であり、期間も限定されている特例措置であることから、支援を必要とする中小企業に確実に情報が行き渡るよう、金融機関や支援機関と連携して周知を図っていくよう求めました。

融資対象者	以下のいずれかに該当し、経営行動計画書を作成した中小企業者等 ①セーフティネット保証5号の認定を受けていること ②売上高、売上高総利益率又は売上高営業利益率が5%以上減少していること (経営行動計画書の作成について、神奈川産業振興センターの助言を受けられますので、積極にご活用ください。)
融資限度額	1億円
融資期間	10年以内（据置期間5年以内を含む）
融資利率	年1.8%以内（固定金利）
信用保証	神奈川県信用保証協会の保証が必要 信用保証率（県補助後） ①0.1% ②0.1%～0.575%

(注)申込み状況などを踏まえて期限前に制度を終了する場合があります。

中小企業に「届く」支援を

私が昨年12月の一般質問で強く主張し、本年1月に設置された「事業の休廃止に関する特別相談窓口」は、設置から約半年が過ぎ、相談件数が一定の割合で伸びていることを確認しました。ただし、神奈川県の廃業数からみるとまだまだ相談件数が少ないため、円滑な休廃止につながるようさらなる周知を要望しました。

また、地域の経営相談窓口である商工会・商工会議所の経営相談員が業務に追われ本来の経営指導に十分な時間が割けないことや、中小企業経営者に神奈川県産業振興センター（KIP）が認知されていない問題についても言及し、土業団体等との連携も強化して、「届く支援」を展開するよう求めました。

「かながわ伴走支援型
特別融資」の詳細は
県HPをご覧ください。





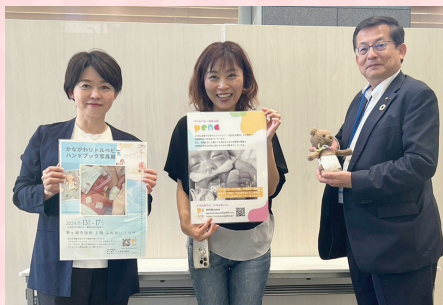
党員会にて、参加者のみなさんに活動報告を行いました。



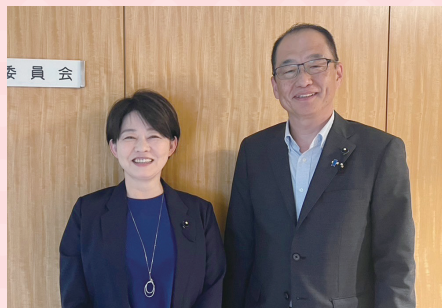
女性局政策懇談会にて、各地の公明党女性議員ともオンラインでつながり連携しています。



ユーストークミーティング、若い世代の方々の声を伺いました。



リトルベビーの写真展にて、NPO 法人 pena 理事長の坂上さんと。



今年度所属する議会運営委員会にて、亀井議員と。



公明党神奈川県議団から黒岩知事に要望を提出しました。

おだ幸子の活動報告が掲載されました。右のQRコードからご覧いただけます。
(湘南える新聞7月13日号)



【全国初】冷凍食品のロス 子ども食堂へ

これまで廃棄されていた冷凍食品の食品ロスを、フードバンク等を通じて、県内の子ども食堂に提供する全国初の取り組みが神奈川県からスタートしました。

この取り組みは、公明党神奈川県議団が令和6年第1回定例会において県に提言したアイデアから生まれたものです。本来、食べられるにも関わらず廃棄されている食品(食品ロス)は、国民一人あたりにすると年間約42kg発生しています。こうした食品ロス削減の取り組みの一つとして、未利用食品をフードバンクに寄付し、子ども食堂などに提供する取り組みがコロナ禍で注目されるようになりました。

その中で、子ども食堂の運営者の方々から、「おかずのメニューの幅が広がる肉や魚等の冷凍食品があるとありがたい」との声が寄せられました。一方で、県内には冷凍食品が船上げされる横浜港、川崎港があり、輸送時の荷崩れや検疫の際の開封などにより市場に出荷できない食品ロスが発生していました。

そこで我が会派は、県内で発生する冷凍食品のロスを、フードバンクや子ども食堂等で扱えるようになれば、SDGsの目標「フードロス削減」や「生活困窮対策」に貢献すると考え、県に対してこうした取り組みを後押しすべきであると提言しました。この提言を受け、県は県内の中核的なフードバンクと連携し、食品会社から冷凍・冷蔵のロス商品の寄贈を受け、さらに地域のフードバンク拠点を通じて、県内全域の子ども食堂等に向けて提供する取り組みを始めることになったのです。

この取り組みについて、黒岩県知事が記者会見で発表したところ、全国紙を始め、NHKの首都圏ニュースでも詳しく報道され、地域の期待が非常に高いことが分かりました。

今後も、子どもたちの笑顔があふれる社会の実現のため、全力で活動してまいります。



神奈川県 県議会議員 活動報告 vol.5



おだ幸子さん

プロフィール
藤沢市辻堂東海岸在住
明治大学政治経済学部・日本工業大学専門職大学院卒業
中小企業診断士
MOT(技術経営修士)
大手損害保険会社に29年勤務
元日本工業大学専門職大学院客員教授
2023年4月 神奈川県議会議員選挙初当選
家族は夫と大学生の息子

【所属委員会など】

- ・議会運営委員会
- ・産業労働常任委員会
- ・共生社会特別委員会
- ・予算委員会
- ・公明党神奈川県議会議員団 政務調査副会長

みなさまの声をお寄せください

【連絡先】
神奈川県議会公明党控室
TEL 045-210-7630
HP・SNS <https://lilink/odasatiko>

HP・SNSはこちら



地方議員 レポート



神奈川県議
織田 幸子

行政HPリンク切れ問題を追及し解消を実現

専門家とのネットワークを活用

「あれ？ またリンク切れだ」。県のホームページを閲覧していると、リンク先に該当ページがなく、必要な情報にアクセスできないことが何度もありました。当時の私は県議1年生。政治の道を志す前は、民間企業で働きのながら中小企業診断士の資格を取得し、企業のマーケティングや商品開発、経営

診断などを行っていました。民間企業にとって、ホームページの「リンク切れ」は企業の信用に関わる重要な問題であり、閲覧の度にリンク切れに遭遇する状況は信じられないことでした。「必要な情報にアクセスできない。しかも、それが速やかに改善されていないのは問題だ。小さな違和感では私の中で大きな疑問になっていました。問題提起に当たって、「リンク切れ

が多い」というだけでは、問題の深刻度が明確ではありませんし、説得力もありません。一方、県のホームページは公式サイトだけで約5万3000ページもあり、全部を調査するには途方もない時間を要します。そこで、自力での調査は限界があると考え、大手電機メーカーの経歴を持つ中小企業診断士の方に調査の協力を依頼しました。

調査ツール選びから始まり、どれぐらい調査時間が必要かも分からない状態からのスタートでしたが、約1カ月間調査ツールを動かし続け、一定数のリンク切れが確かに存在するという確証を得ました。それを基に、一般質問で取り上げようと担当部署と打ち合わせを行いました。するとその過程で、県の公式ホームページ約5万3000ページのうち9%にあたる約4700ページ、他に外部事業者へ委託している外部サイトのうち約4300ページ

にリンク切れの可能性のあることが判明しました。

その後、担当部署からは本会議で取り上げることに「難色」が示され、右も左も分からない初めての一般質問というところもあり、「取り下げる方が良いのだろうか」と悩みました。しかし、先輩議員の「君がおかしいと思うならやりなさい！ 大丈夫だから」との力強い言葉に背中を押され、やり遂げる決意をしました。

2023年12月の一般質問当日、リンク切れの具体的なデータを提示し「リンク切れは情報を取得できるか否かに関わる極めて重要な問題であり、この状態を放置することは県のホームページの価値を毀損し、情報発信の姿勢が問われる」と訴えました。

知事は「県の公式ホームページ約5万3000ページのうち、約4700ページにリンク切れの可能性がある」と明言し、その主な原因として「ペー

ジ公開後1年経つと、原則として非公開になるシステム設定や、リンク先のページがなくなってしまうこと」を挙げました。そして、私の指摘をきっかけに、詳細な原因調査や修正を開始していること、今後、関係部署間で連携してページの定期的なチェックを実施するとともに、リンク切れ前に修正できる仕組みを検討するとの答弁を得ました。

大きな反響と手応え、信念を貫くことを学ぶ

この一般質問には大きな反響があり、新聞各紙にも取り上げられました。また、県職員から「議会で取り上げてもらったおかげで、県全体が改善に向けて動き出しました」との感謝の声が寄せられ、支援者の方から「あなたを応援したかった。感動した」と喜んでもらえるなど大きな手応えを得ています。

その後、県は担当部署が中心となって問題解決に取り組み、24年2月時点で県公式ホームページのリンク切れは、ほぼ解消しました。また、外部事業者に委託していたサイトも、仕様書に定期的にリンク切れをチェックすることを追加し、再発防止の手が打たれました。

ただし、リンク切れはいったん解消をしても、再発生することが避けられません。今後は業務効率化の観点からも、マンパワーだけに頼らない仕組みを構築していく必要があります。これらの課題は、他自治体にも通じることであり、今後も県の取り組みをしっかり注視し、情報の共有を図っていきたいと考えています。

今回の経験は、新人議員の私にとってさまざまな学びの機会となりました。自身の議員活動の原点として、今後も県政の諸課題に全力で取り組んでまいります。